



——— 自 立 へ の 道 案 内 ———



もくじ

●自立生活の最前線から（NPO法人リアライズインタビュー）	2
●社会資源情報（コンビニ調査編②）	12
●コンビニいろいろランキング	18
●リレーエッセイ（第9回）（南光龍平）	19
●新人スタッフ自己紹介（足立誠）	23
●編集後記	24

～自立生活の最前線から 障害者自立支援法の影響を探る～

特定非営利活動法人 リアライズ

NPO法人リアライズ理事長 三井孝夫さん 事務局員 川本将勝さんに聞く

取材

日：2009年1月16日

場 所：NPO法人 リアライズ

東大阪・和歌山・奈良・滋賀と続けてきた障害者自立支援法の影響を探るインタビューですが第5弾として選んだのは泉大津市など泉州地域を中心に活動しているNPO法人リアライズです。NPO法人リアライズでは自立生活センターと介助派遣事業所を運営されています。

立ち上げて約1年、立ち上げの苦労話・現在、活動を通じて見えてきた地域の現状・課題・障害者自立支援法の影響などを聞いてきました！

～はじめに～

小坪：まず立ち上げようと思ったきっかけや、経過を教えてくださいか？

三井：僕は泉大津出身で小・中・高は泉大津市内の地域の学校に通っていたんですが、今から25年前で、障害者が自由に入学できる状況じゃなかったんです。

南光：確かに25年前ならまだそんな状況やったね。

三井：そうなんです！ 行政に「養護学校どうですか？」って言われて。でも俺、兄貴おったから、兄貴は地域の学校行っとったから「当然行けるもんや」と思ってたんですよ。

小坪：兄弟がいたら何でも同じようにしたいって思うのが当たり前やしね。

三井：そう！「なんで違う所に行かなアカンね

ん。制服欲しいし。」って感じで。地域の学校へ行けるもんやと思ってたけど、そういうふうに言われました。だけど、うちのオカンも地域の学校に入りたいというのがあって、それで何回か行政と話し合いをしました。

南光：そうだったんか。話し合いはうまく進んだ？

三井：話し合いを繰り返しても話が進まなくて、これではダメやと思って、小学校に直談判に行きました。

松崎：直談判した結果は？

三井：たまたま、その時の校長先生がオカンの小学校時代の担任で校長先生が「ええよ、おいで」って言うてくれたから、地域の学校に入ることが出来たんです。

小坪：小学校入学までにそんな事があったんや。特に学校生活の中で問題とかはなかったん？

三井：小学校の時はなかったけど中学でクラブ活動への入部を拒否された。本当は野球部に

入りたいかったけど、「車椅子で野球部は無理や！文化部にしとけ。」って断られました。

南光：そんな事があったのね！結局クラブはどこにしたん？

三井：親父が、たまたまブラバンやってたから、ブラスバンドでもええかと思って入ったけどやりたいことちゃうから面白くなくて…

南光：野球やりたかったんやもんな。

三井：ブラスバンドを辞めてからヤンチャ盛りを楽しんで。その後、高校へ入学っていうことになるんですが。高校は義務教育から外れるでしょ。ここでまた差別が起きるわけですよ！

～障害持ってる人は頭で勝負!?

しかし数々の差別を体験～

三井：小学校・中学校の頃っていうのは「障害持ってる人は頭で勝負していけ！」という教育を受けるでしょ。だからヤンチャもしながら勉強もやっててん。

松崎：優秀なヤンチャやね。

三井：そう優秀なヤンチャやってん（笑）インテリ・ヤンチャしとったんやけど、中学の三者面談の時に行きたい高校を言ったけど「通学が遠いから無理」っていう理由で、行きたい高校受験はさせてもらえなくて。

松崎：通学だけの問題で？

三井：そう。「電車では行かれへんやろ」という理由で近所の泉大津高校へ行く事になって。

南光：抵抗はしなかった？

三井：抵抗はしたけど、中学校の先生に内申書みたいなのを書いてもらわないとアカンからそれで泉大津高校という話で親と先生の間で決められて。

小坪：そんなやりとりが高校進学の時にあったんや。

三井：親も「近くがいい」って近い高校を推してたから。それで俺ははめられて（笑）結局そこの入試を受けて試験は合格した。ところが、入学の面接する時に、入学するための条件があって。

小坪：どんな条件？

三井：学校で起きた事故は責任は負わない。もう1つは登下校の送迎は親がする。この2つが出来ないと入学は認めない。「念書」書けと言われた。

小坪：それはヒドイな。責任逃れやし、送迎を親がやるって今さら??

三井：そうでしょ。今まで小学校、中学校って友達と行ってたから「なんで高校になって逆戻りやねん！」って思ってた。

南光：普通は高校から自分で行くのにな。

三井：それも通学できるところが良いから言うてそこを選ばされて、なんでオカンに来ても

らわなアカンねん！って思ったんですよ。

南光：当然の思いやと思うわ！

三井：そんなんやったら「もうこんな所来たくないわ」と思ったけど、公立高校の試験の後って私立高校の受験も終わった後で、何もないから、書かなかったら高校浪人になってしまうから。とりあえず書きました。

松崎：入学したらさすがに、その理由だけで退学はさせられないだろうしね。

三井：僕もそう考えて、とりあえず「書いたるわ。」って出して、それで入学しました。もちろん親の送迎は拒否して友達と一緒に通学して。

小坪：念書まで書いたのに、友達と通学して学校は何も言わなかった？

三井：初めの頃は言われたけど「通えるやからええやろ！その為に、ここを選んだんや！」って言った。

小坪：それは、筋が通ってる。

三井：でも、小学校、中学校で言われてきた「勉強して勝負していけ！」と言うけれども勉強したって結局意味がないっていう結論が出たわけですよ。障害があつたら、勉強以前の段階でダメな事があるなって思ったんです。それで高校時代は結局、3年間遊び三昧で終ってほとんど勉強はしなかったです。



理事長の三井さん

～若い障害者の子たちが自分と

同じ経験をしないように社会を変える～

松崎：就職とか進学とか高校を卒業してからの進路はどう思ってた？

三井：俺は将来、結局自分の出来ないことばかりで、先が見えないなあって、すごい考えて、すごい悔しいし、その時は「障害を持ってなかったら」って思っていた。でもそんな風に思ってるの嫌やししんどいやん。

松崎：そう考えていくとどんどんしんどくなってしまうね。

三井：そこで「この経験を活かさなアカン！もったいない！」と思って、自分よりも若い障害を持った泉大津に住んでいる子たちが地域の学校へ当たり前に通えるように変えていかなアカンなって考えてて、そういう拠点として、いつかセンターを立ち上げて泉大津で活動していきたいと思って立ち上げを決意しました。

小坪：じゃあ、この経験がなかったら、自立生活センターで働いてない？

三井：絶対してない。たぶん、弁護士とか、そんなんになりたいと思ってたと思う。お金が稼げて人の役に立てるみたいな仕事をやりたいと思ってたからね。

小坪：体動かしたら危ないし頭活かそうと思ったらそうなるか。じゃあ自分自身が差別受けてきたからこそ今に繋がってるんですね。

三井：リアライズ設立に向けた準備でもう1回勉強しようと浪人して大学に入ったのが1997年です。

三井：大学の授業でDPI日本会議の尾上浩二さんや今は東洋大学におられる北野誠一さんと出会って初めて自立生活センターの存在を知りました。

松崎：大学を卒業してからの流れの確認ですが、大学を卒業してすぐにナビに入ったの？

三井：そうです。自立生活センター・ナビで自立生活センターの「基本」を学んでその後ピア大阪で7年間、相談支援に携わりました。

南光：そう言ってもらえると嬉しいな。

～立ち上げまでの苦労～

小坪：NPO法人リアライズの立ち上げを決意して立ち上げを進めていく時に苦労した事を教えて下さい。

三井：まず苦労したのは、法人格の資格取得や、派遣事業の指定の取得に向けて進めた必要書類の作成かな。

小坪：今聞いただけでも大変そう。

三井：苦労はしたけど、書類作成に関しては、実際に経験ある人に相談しながら教えてもらいながらやりました。それに書類作成は、思いがあればやっていける事やし大変やけどやりました。

南光：ヘルパー派遣をするならヘルパーを集めるのも大変やったでしょ？

三井：人に関しては「自分達がこの地域を変えたい！」という気持ちを時間をかけて話しました。その思いに賛同してくれたメンバーを集めていくっていうのは、人との繋がりもあったし苦労してないかもしれません。

小坪：大学時代の繋がりが広くて深そうやもんね。

三井：繋がりは大切にしたいから。今も苦労しているけど、1番の苦労はやっぱりお金かな。お金に関しては、なんぼ思いがあっても、お金は出てこないからそこは本当に苦労しました。

小坪：実際、この事務所立ち上げようとする時に、お金はどのくらい必要でしたか？

三井：1 番初めに準備したお金は7 0 0 万円ぐらいかな。初めに、三井と長瀬で2 0 0 万円ぐらい貯金から用意しました。それでも足りなかったんで、二人で1 0 0 万円を追加しました。それと、リアライズ設立準備会に向けての通信を作って寄付や賛助会費という形で応援してもらったり、それでも足りない残り3 0 0 万円は借金しました。

南光：それは大変やったね。

三井：はい。その準備をするのがしんどかったです。ホンマは立ち上げる前にそういうことを見込んで個人的に1 0 0 0 万円ぐらい貯めておきたかったけど無理でした（笑）

松崎：じゃあ今の事務所のやりくりっていうのは派遣の分で回してるって感じ？

三井：収入に関しては介護報酬と会費と寄付金とかで運営しています。相談事業に関しては会費と寄付金で、派遣の方は派遣でやっています。

小坪：やりくりが大変そうですね。

三井：ギリギリです。うちが派遣しているのはほぼ重度訪問だけなんです。移動支援あるけど単価は重度訪問介護とほぼ同じで1 時間1 8 0 0 円ぐらい。派遣している移動支援は1 0 時間とか2 0 時間と少しだけなので、キツイですね。

南光：どうして重度訪問介護だけなんですか？

三井：この地域で重度訪問介護の派遣をやっているのは同姓介護で2 4 時間しているのはリアライズだけなんです。そういう介護を必要な人を優先的にサポートしていきたいという思いもあるし、身体・家事だけなら泉大津にも他にも事業所あるし。



～リアライズメンバー紹介～

小坪：今のメンバーを誘ったきっかけは？

三井：スタッフは当事者2 人と健常者2 人。まず誘ったのは長瀬君。たまたまピア大阪に見学に来た長瀬君と出会って、その日に食事をしながらCILや運動について色々話をしました。

南光：何で長瀬君をパートナーにしたいと思ったのかな？

三井：彼は東京で国立援助為センターで6年間

ヘルパーとして働いていて、僕が立ち上げようと決意した4月の時点でCIL運動について対等に話が出来るだけの知識と経験を持っていたし、そんな人をパートナーにしないと立ち上げなんて難しいなと思ったんです。それで、長瀬君に声をかけました。

南光：スムーズに話は進んだ？

三井：結婚しているから1人では決められへん。だから少し待ってと言われたんです。

でも、翌日にはすぐに決心したみたいです。半年ぐらい彼と2人で活動しましたね。

小坪：川本君を誘ったきっかけは？

三井：川本君とは僕がナビで働きだした頃からの関わりで、その後もピア大阪でピア・カウンセリングをしていたんです。根性ある人を入れたいと思って川本くんを誘った。

松崎：いきなり誘われてすぐに決心出来た？

川本：前から自立生活センターで働きたいという思いもありました。けど今までいろんな自立生活センターや作業所に関わる事が多くて1ヶ所におることが少なかったんで不安もありました。

小坪：不安も多かったと思うわ。

川本：でも三井さんから「一緒にやって行かへんか？」と電話があって体力的にも「今しかない！」と思い決意しました。

南光：山本君はどんな流れでリアライズに関わることになったんですか？

山本：僕ももともと三井と同じ桃山学院大学出身で、僕が学生だったときに大学の講義に三井さんが講師として来てくれたのが出会いのきっかけでした。その講義の中で、地元が泉大津市で同じということで、話が盛り上がったんですよ！その後で、三井さんと泉大津で一緒に何か出来たらいいなあ…なんて話をしていました。

小坪：「何かやりたい！」という思いがリアライズに結びついた感じですか？

山本：「おもしろそうやなあ。」って思ったけどすぐには結びつかなかったです。まさに今から立ち上げようとしている団体に自分は関われるのかと疑問に思ったんです。

南光：不安に思った事はどんな事？



左から山本さん川本さん

山本：経済的にも生活面でも不安がありました。大学卒業して、安定した収入を得たいという思いが強かったし、先の見えないものには突っ込まれへんなと思って特別養護老人ホームに就職して介護職として働いていました。

小坪：気持ちの変化があったから今リアライズで働いてるんですね。どんな変化があったんでしょう？

山本：施設じゃなくて地域生活を支えるような動きが出来たらいいなとは思ってたんです。ちょうどその頃三井さんから電話があって「リアライズっていうのをやろうと思ってるんやけど、お前どう？」って誘われたけど2ヶ月ぐらい悩みました。

松崎：逆に三井君は迷っている山本君を、どう説得していったかを教えてくださいませんか。

三井：可能性がある人に声をかけていこうと思ったのと「泉大津を何とかしたい！」という僕の気持ちと話をしていく中で繋がれたので、あまりプレッシャーをかけないようにして説得しました。

小坪：関わろうと決心した決め手を、教えてくださいませんか。

山本：決め手は格好良さですね。

南光：格好良さ!? 具体的にはどんな事かな？

山本：泉大津には自立生活センターとか、障害者の権利を主張する場が出来ていないと聞いて、泉大津が変われるきっかけの一部になればと思って決心しました。

南光：カッコイイね！

山本：リアライズがなかったら泉大津は変わっていきにくいと思う。今まで僕もあまり障害者を見たことがなかった。まだまだ差別がある社会の現状を変えてやろうとしている人についていく方が面白そうと感じたんですよね。

小坪：なかなか熱いものを感じますね。

山本：決め手を一言で言うならその熱さですね。

三井：リアライズのメンバーを呼びかけていく中で、（山本）ヒロシに話をするのに一番時間をかけたかな。この1年で、この2人（川本君・山本君）は変わったと思う。

松崎：どんな部分が??

三井：川本くんは同じところに通い続けることがなかったし、自分のことを知る経験って大切なんやと思うんやけど。この1年間で経験してきて、今後自分にはどういう課題があって、どういう風に越えていかなアカンのか越えられるのかどうかという部分みたいなところで闘いながら1年間やってきたと思うし、変わってきてるし、人との関わり方も少しづつ変わってきてるし。

南光：山本君も変わってきたと思う？

三井：今までは特別養護老人ホームで働いていたから「介護予防」という考え方が強かったと思う

んです。初出勤した時も「お茶入れて」って頼んだら「自分でやり」って言うてたぐらい（笑）

山本：自然に出た言葉でしたね。

三井：自立生活センターでいわれている自立は、金銭的自立とか、身辺自立だけを自立というのではなくて自分で出来ないことは介助者を使って生活を組み立てる事を提案してるでしょ。

小坪：「自己選択・自己決定・自己責任」やね。

三井：初めからこの考え方を伝えるより、まずは自分の障害を知ってもらおうと、時間をかけて色々と話をしました。

山本：正直言って、大学で福祉について勉強してたけど、自分の事とは思えなかったし。障害ってマイナスのイメージがあった。障害はないほうがええんちゃうんって思っていました。

小坪：今までほとんど関わった事がない場合はそのイメージを持ってしまいがちですよ。

三井：この地域でずっと生きてきて、福祉の勉強をしてきたのにも関わらず、リアライズにきた当初は障害のことを全く知らなかった。それが、いかに、この地域の中の障害者が排除されているかを顕著に表していると思うんです。

小坪：なるほど！同感。

三井：リアライズに関わる事で、変わってきた意識を今度は彼が他の人に伝えて僕たちが大切にしている事が更に広がっていけば良いと思っています。



写真左から川本さん、山本さん、
絶叫する三井さん

～これからも熱く語って仲間を
増やしていきたいです～

小坪：いまリアライズに関わっている人達の人数って何人くらいですか？

三井：分かる範囲やったら50人ぐらいかな。介助派遣のヘルパー・正職員、管理者も入れて19人です。

三井：派遣先の仲間は8人です。

南光：リアライズに関わっている人で自立に向けて支援をしている人はいますか？

三井：4月から自立する方が1人います。

南光：その人へのピア・カウンセリングとか自立生活プログラムもリアライズとして取り組んだの？

三井：自立生活プログラム（個別）をしたりピア・カウンセリングもしました。

松崎：リアライズに関わってない人で自立してる人は？

三井：重度訪問介護を使っている障害者は、数人しかいてないみたいです。

小坪：これから、自立に向けたサポートを進めていく時に、たくさんの介助者が必要になると思うけど介護者募集の方法はどうしていますか？

三井：大学に募集へ行ったり、前にやっていたボランティアサークルに行って、そのメンバー何人かに声かけして「一緒にやろう。」って言ってくれた仲間がいたから、その人たちと始めました。

松崎：その他には？

三井：近くにある南海福祉専門学校に講演へ行く機会があって、その時に、メッチャ何回も目が合った人がいて、それで終わってから、声かけたら「バスケットの試合があるから無理です」って言われたんですけど、事務所の前の道が通学路で、その子が帰宅する時に声をかけて、事務所に招いてCILや運動の説明して登録に至りました。

小坪：やっぱり熱く語る事が大事やね。

三井：自腹でヘルパー資格を取りに行ってくれました。

小坪：介護に興味があるって学生がいても、資格問題があるからすぐ動くのは出来ないしね。

三井：登録したいってなったら、すぐに行ってもらえる体制は作ってあるんですよ。

南光：どんな体制？

三井：毎月開催している一般企業が開催している講座に資格を取りに行ってもらったり、大阪府下の障害者団体が主催する講座を受講してもらったり、だから学生の日程さえ合えば行ってもらえます。

松崎：介助派遣を希望している人がたくさんいるの？

三井：比較的資格を取ってもらえれば、男性は川本くんの介助にすぐに入ってもらえるんですよ。

～泉大津市の社会資源～

松崎：泉大津は日中活動の場はいくつぐらいありますか？

三井：地域活動支援センターはⅡ型が1ヶ所。通所授産施設が運営している生活介護が1ヶ所。無認可作業所が2ヶ所です。

松崎：NPO法人リアライズとして日中活動の場を作って行きたいと思っっていますか？

三井：将来的にはリアライズとして日中活動の場を作って、自分の存在を発揮できるような場所を作っていきたいという思いはありますね。

南光：地元の他団体とネットワークはある？

三井：今までの歴史がそれぞれにあるので連携を取れる繋がりを持ってやっていかなアカンと思っています。

小坪：他府県とかでは地域自立支援協議会に参加してから地域のネットワークが出来てきたと聞いたりするけど泉大津はどうですか？

三井：地域自立支援協議会は、今は準備している段階です。

小坪：滋賀は「この指とまれ形式」で希望した所が参加できている所もあるみたいですよ。

三井：そんな形ならリアライズとしても、ぜひ参加したいですね。

～介護時間と障害程度区分～

松崎：川本君は介護時間は、何時間認められていますか？

川本：障害程度区分6。重度訪問介護で561時間です。

松崎：561時間ってすごく長時間認められてるんですね。

三井：泉大津ならではの理由があって大阪市みたいに日中活動の場が多くないんですよ。

南光：大阪市の場合は、昼間は生活介護とか小規模作業所等に通っている人が多いもんね。

三井：日中活動の場所が少ないので昼間の介護時間数分も認められているというのが正直な所です。行政的に言うと川本君もデイサービスとか地域活動支援センターに通って欲しいみたいですけどね。行きたくないのに行っても仕方ないし。

松崎：ちなみに他の人は何時間ぐらいの介護時間数が認められてるの？

三井：100時間ぐらいの支給決定の人がいてるらしいです。

小坪：川本くんに支給決定されている561時間が泉大津市の介護時間数の上限？

三井：そうです。561時間以上認めるのは泉大津市の財政規模考えたら限界かな。

小坪：川本くんと同じような時間数が必要な自立障害者が出てきた時にどう闘うかがポイントですね。

三井：本当にそう思います。地域で自立生活をする仲間を増やし、生活をサポートしていくのが自立生活センターの役割でもあると思うし今後の活動がますます重要だと思っています。

小坪：障害程度区分の認定調査は市役所がするの？

三井：委託相談支援事業所か市役所がやっています。どっちに依頼するかは本人が決められるようになっていきます。

小坪：訪問調査にくる調査員の障害の理解が時間数を大きく左右するしね。

三井：介添人としてリアライズが関われば、そういう部分も変わっていくと思うんです。いろんな活動していると行政の対応も変わってくると思います。

小坪：地道な信頼関係作りも大切やね。

～大阪市と泉大津市の違い～

小坪：大阪市内の自立生活センターで働いてきて地元の泉大津でセンターを立ち上げて大阪市との違いを感じる事もあると思うけど違いを感じるのはどんな部分？

三井：色んな部分で違いは感じています。僕が話すより、川本君が体験した差別を話してもらった方が伝わると思うので

川本：大阪市から泉大津市に引っ越す事になって家探しをして、決まりかけたけど障害を理由に大家さんに断られました。

三井：この地域は持ち家に住んでいる人が多いんです。昔ながらの家が多いし、大阪市内に比べたら物件数が少ない。エレベーターがあるだけで高級。

南光：まだまだ昔と変わらない状況にあるな。

三井：障害者＝無理。という感じで大家さんの理解が得られにくいんです。バリアフリーの家が見つかってても大家さんが最大のバリアになってしまう。

小坪：川本君はどんな家に住んでいますか？

川本：長屋に住んでいます。

小坪：川本くんが家探し以外で苦労したことは？

川本：家のお風呂は狭くて、足をたたんだままだと浴槽に入るのは無理なので銭湯に行っただけです。その時に入湯拒否にあいました。

松崎：どんな理由で？

川本：障害があるからという理由で。

南光：直球やな。

川本：でも家のお風呂は入れないからと店に話をしたら、1回目は「ダメです」って言われたけど強引に入りました。

小坪：2回目からはどうしたん？

川本：2回目も同じ店に行ったらモメて「入ってもらうかどうか検討します」って言われたんですよ。

松崎：何をどう検討するのかな？何日後くらいに返事があったの？

川本：1週間ぐらい。検討結果は、場所も取るしイメージが悪くなるからという理由。

小坪：同じ店に抗議を続けたのか、違う所を探したのかどっち？

川本：違うところを探しました。それだけでは、ダメだと思って泉大津市に連絡して苦情を伝えました。

三井：公衆浴場法の取り決めによると「入湯拒否したらダメ」ということは書いていない。助成金を使って改造したスーパー銭湯とかは障害者も受け入れないといけないと決まっているらしいです。

小坪：じゃあスーパー銭湯とかでない場合、拒否しないか、拒否するかは店が決めるのかなあ？

三井：店主の判断みたい。

南光：今はどこへ行ってるの？

川本：今は家から歩いて40分くらいの場所にあるスーパー銭湯へ行っています。

小坪：今の時期は風邪ひきそうやね。



～リアライズの特徴～

南光：リアライズの活動の中で独自の活動とか力を入れている事を教えてくださいませんか？

三井：児童養護施設出身の当事者や、児童擁護関係者が作っているC V Vという当事者団体があるんです。

小坪：C V Vって何の略称？

三井：children's views&voice(通称：CVV)

松崎：どんな活動してるの？

三井：人権啓発セミナーを開催したりしています。

南光：初めて聞いたわ。

三井：児童養護施設出身の人達も、抑圧や社会経験を奪われてきたという部分では共感しあえる事が多いと思うし、いざという時に助けてって言える拠点が当事者が活動しているリアライズやC V Vだと感じています。

小坪：連携していくことで、お互いにとって良い部分を吸収していけるよね。

三井：僕らが考えているのは、施設出身の当事者の人達の中で興味を持ってもらえる人がいたらヘルプセンターの登録ヘルパーになってもらいたいです。

松崎：それはいい考えかも。

三井：関わりの中で、児童養護版の自立生活センターみたいなものが出来たら良いですね。

小坪：他に力を入れて取り組んでいる事は？

三井：障害学生の支援です。

南光：少しでも早い時期から1人暮らしを経験した方が色んな意味で充実すると思うわ。

三井：健常者、障害者関係なく、学生達とのネットワークを作って、いろんな形で楽しみながら自立を応援できたらいいなと思っています。

小坪：川本くんが今後やっていきたい事は何ですか？

川本：大阪市に住んでた時より地域的にバリアが多いからしんどい部分があるので、この地域を住みやすい地域にしていきたい。今は、自分自身のスキルアップしていきたい。

小坪：今日は長時間ありがとうございました。

社会資源情報

コンビニエンスストア編 その3

前号に引き続き、大阪市東住吉区にあるコンビニエンスストアをいくつかピックアップし電話調査結果と実際に現場に行き調査した結果を掲載したいと思います。今回は、株式会社セブンーイレブン・ジャパンと株式会社ローソンです。

【株式会社セブンーイレブン・ジャパン 本社】

住所：〒102-8455 東京都千代田区二番町8番地8

電話：03-6238-3711（代表）

『電話調査結果』

Q. 貴社の障害者の利用者に対しての基本的な考えを教えてください。

A. セブンーイレブンでは、従来から『出入り口の段差をなくす』『車椅子のお客様でも手に取りやすい高さに商品を陳列する』などの設備の改善に取り組んでいましたが、2004年度からはバリアフリーの考え方を店舗設計に採用して店舗作りを進めています。

Q. 障害者の利用者に対して、接客においての社員教育やバリアフリーに取り組む研究などはされていますか？
（その内容についても教えてください）

A. 障害者のお客様には、お客様に代わって商品を探す、持ってくるなどお買い物のお手伝いをさせていただいております。自動ドアが採用されていない店舗では、入店、出店の際にドアを開けるなどお手伝いをさせていただいております。

Q. 接客マニュアルや障害者の利用に対するマニュアルは作られていますか？（その内容についても教えてください）

A. マニュアルは特に作成いたしておりません。

Q. 店舗の入り口について、バリアフリーの基準は設けておられますか？（扉の幅、段差の有無や解消方法、自動ドアなど）

A. 店の大きさがまちまちなため一概にお答えは出来ませんが、標準的な店舗では、自動扉の幅は開けた状態で1700^{mm}といたしております。段差は基本的に無いような店舗設計にしております。

Q. 基本としているのは、自動ドアですか？手動ドアですか？（また、どちらかにしている基準は何ですか？）

A. 現在は自動ドアを基本としております。（降雪地域は手動ドアになっております）

Q. 店舗内の通路の幅（棚同士の間）に基準は設けておられますか？

A. 店舗の大きさ、形状によって異なりますが、標準的な店舗であれば、商品陳列棚間の通路幅は1,100^{mm}、雑誌前の通路幅が1,480^{mm}、お弁当のケース前などは1,600^{mm}、レジカウンター前が1,760^{mm}といたしております。（あくまでも標準的な店舗での数値でございますので、各店舗により異なります）

Q. 新しい店舗について、障害者用トイレ・障害者用駐車場の設置を義務付けておられますか？（また、それらが設置されている店舗は全店舗のうち何店舗ですか？）

A. 障害者用トイレ・障害者用駐車場の設置は義務付けではございませんが、2004年度以降標準サイズ以上の店舗、設置できるスペースがある店舗については設置をいたしております。設置されている店舗は全国でまだ700店舗弱です。

『電話調査問い合わせ先：株式会社セブンイレブンジャパン』

お客様相談室 電話0120-711-372』

『セブンイレブン 現場調査』

①セブンイレブン近鉄針中野駅前店

調査日：2009年1月30日（金）

調査者：手動車椅子使用者1名

住 所：546-0011 大阪市東住吉区針中野3丁目1-30

電 話：06-6702-7781



コンビニの玄関

左側にスロープがあり車椅子で
通ることができる。



入り口までのスロープ①

点字ブロックが床と同系色になっている



入り口までのスロープ②

なだらかなスロープになっている。



障害者用トイレ

ドアは手動

回転が出来ないくらい狭い！！



手動車椅子1台入るのがやっと。

介護者と一緒に入るのは、

かなり厳しいかも？！

【株式会社ローソン 本社】

住所：〒141-8643 東京都品川区大崎一丁目11番2号

ゲートシティ大崎イーストタワー6F<総合受付>

電話：03-5435-2770（代表）

『電話調査結果』

Q. 貴社の障害者の利用者に対しての基本的な考えを教えてください。

A. 高齢の方や妊娠をしている方、障害のある方などにも快適で使いやすい店舗を目指し、バリアフリー化を進めています。新規オープン店では入口の段差をなくすほか、2006年度からは駐車場のある店舗に車椅子使用者用駐車場（1台分）を設置。トイレには洋式トイレを採用し、手すりを設置するとともに、入口の段差をなくしています。また、一部の店舗では高齢のお客様にやさしいお店づくりとして、ショッピングカートや大きくて見やすいプライスカードの導入なども行っています。

Q. 障害者の利用者に対し、接客においての社員教育やバリアフリーに取り組む研究などはされていますか？（その内容についても教えてください）

A. 障害者利用に対する社員教育や研究についてですが、障害者利用に特化した内容の社員教育はとくにありません。

Q. 接客マニュアルや障害者の利用に対するマニュアルは作られていますか？
（その内容についても教えてください）

A. 高齢者・松葉杖・車椅子で来店されたお客様、補助犬同伴及び、視覚障害等のお客様の援助をし、快く安全に買物をして頂く為の対応マニュアルを作成しております。

内容と致しましては、入店時から買い物の援助、出口でのお見送りまでを通してそれぞれの障害者様に合わせた対応と援助の手順を作成しております。

Q. 店舗の入り口について、バリアフリーの基準は設けておられますか？
（扉の幅、段差の有無や解消方法、自動ドアなど）

A. バリアフリーの社内基準は特に設けておりませんが、現在の設計標準図の店舗入口は、有効幅1,800^{mm}としております。また、同標準図では、店舗内の段差はありません。自動ドア

は2008年度から標準としております。但し店舗の立地、個店条件等により変わる場合があります。

Q. 基本としているのは、自動ドアですか?手動ドアですか?

(また、どちらかにしている基準は何ですか?)

A. 上記の通り、2008年3月から、お客様の利便性を考慮して、自動ドアを標準図面に反映しています。但し店舗の立地、個店条件等により変わる場合があります。

Q. 店舗内の通路の幅(棚同士の間)に基準は設けておられますか?

A. 一般的にはカウンター前1,900mm程度、外周通路1,500mm程度、 Gondola間(商品棚)1,100mm程度で計画しております。最低を900mm程度としておりますが、狭小地(駅構内など)の店舗など、諸条件により、基準よりも狭い場合もあります。

Q. 新しい店舗について、障害者用トイレ・障害者用駐車場の設置を義務付けておられますか?(設置されている店舗は全店舗の内何店舗ですか?)

A. 社内ルールとして「設置の義務付け」という方式はとっておりません。弊社の「標準設計図面」の改訂において、上記と重なりますが、それぞれ下記の時期に標準設計図に反映しております。

○2008年3月～障害者用トイレ

○2006年3月～障害者用駐車場

ただし、敷地形状などの個々の店舗の諸条件により、あくまで柔軟に対応させていただいております。それぞれの正確な設置数は集計しておりません。

『電話調査問い合わせ先：株式会社ローソン

お客様相談室電話 0120-07-3963』

『ローソン 現場調査』

①ローソン田辺5丁目店

調査日：2009年1月30日(金)

調査者：手動車椅子使用者1名

住所：546-0031 大阪府大阪市東住吉区田辺5-1-37

電話：06-6621-9036



自転車が、ちゃんと止められてなくて手動車椅子では通りにくかった。
入り口は手動ドア

②ローソン矢田駅前店

調査日:2009年1月30日(金)

調査者:手動車椅子使用者1名

住 所:546-0023 大阪府大阪市東住吉区矢田2-24-10

電 話:06-6608-7702



駅から本当に、すぐそこ!でした。



入り口はフラットで入りやすかった。



障害者用トイレ

鍵は低い所にあり、しかも閉めにくい!!



便器の両サイドに手すりが付いていた。

中は広くなく回転するのも難しい構造。

～コンビニエンスストアの店舗数②～

③	セブン-イレブン	12,141	青森県・秋田県・石川県・山陰・四国・ 鹿児島県・沖縄県を除く	2009年1月末
④	ローソン	8,614	全国	2008年8月末

好きなコンビニおにぎりランキング	
1	ツナマヨネーズ
2	明太子
3	しゃけ
4	たらこ
5	とり五目
6	うめ
7	昆布
8	高菜
9	おかか
10	いくら

あったら嬉しい理想のコンビニランキング	
1	賞味期限がきれいな弁当を割引する
2	各種コンビニ店の人気商品が売られている
3	深夜や早朝など、客数の少ないときに特売セールがある
4	宝くじの販売・換金ができる
5	値引き交渉ができる
6	弁当をその場で調理してくれる
7	ドライブスルーがある
8	店員が美男美女
9	エコ商品のみを取り扱っている
10	JRの切符が買える

コンビニでよく買うお菓子ランキング	
1	小枝
2	ポテトチップス
3	ソフトサラダ
4	プリッツ
5	ポッキー
6	コアラのマーチ
7	キットカット
8	トッポ
9	チョコボール
10	オレオ

この冬食べてみたいコンビニの中華まんランキング	
1	ナチュラルローソンの横浜中華街の肉まん
2	セブン-イレブンの肉まん
3	セブン-イレブンの豚まん
4	ローソンのキン肉まん（牛丼風）
5	セブン-イレブンの大入りジューシー肉まん
6	ファミリーマートの肉まん
7	ローソンの肉まん
8	セブン-イレブンのピザまん
9	ローソンの特製肉まん
10	ミニストップの豚角煮まん

コンビニで夜食に食べたい物ランキング	
1	おにぎり
2	中華まん
3	おでん
4	インスタントラーメン
5	サンドウィッチ
6	パン
7	スナック菓子
8	チョコレート
9	たこ焼き・おこのみや
10	ケーキ

つい買ってしまうコンビニのレジ横メニューランキング	
1	中華まん
2	から揚げ
3	キシリトールガム
4	おでん
5	和菓子（大福、ようかんなど）
6	フライ（ポテト、フィッシュなど）
7	フランクフルト
8	一口サイズのチョコ（チロルチョコ）
9	ホットドリンク
10	棒付きキャンデー

憧れの地ビールを求めて

南光龍平

毎晩、晩酌が楽しみな私にとって最近特にハマっているのが地ビールである。こ存知の方も多いだろうが、地ビールというのはキリンやアサヒといった大きなメーカーで作っているビールではなく、綺麗で美味しい水が湧き出る地域で、その水を利用してそれぞれ地域性や原料にこだわりを持って作られているビールの事。生産される量も限られていて、なかなか一般の店でお目にかかることも難しい物も中にはある。もちろん、味も千差万別で中にはジュースのようなものもあったりコーヒーのような香りのあるものもあり、「これがビール？」というものも沢山ある。見た目も一般的なビールとは異なり、黒は勿論のこと紫や赤や、こちらもとてもビールとは思えないようなカラフルなものもあり、初めての人にとっては、ちょっととっつきにくいものもある。しかし、ビール好きにとっては、そういった様々な違いを味わったり見た目を楽しむのもたまらない事なのである。

さて、そんな地ビールを以前から作られている地元で呑みたいという、ささやかなそれでいて私にとっては長年の願望を実現出来る絶好のチャンスが今回を訪れた訳である。

「障害者の自立と完全参加をめざす大阪連絡会議」が行なった、バリアフリーアドバイザー養成講座の中で、自分自身で関心のある所のバリアフリー調査を行なうことになったのである。講座に参加した私はどんなところをどんな目的で調査するか？という問題に、「そうだ！！！作りたての地ビールを地元で呑めるか？を調べに行こう！車椅子でも作りたての地ビールが呑めるか？目の前で出来上がったばかりのビールの爽やかさ！のど越し！障害者でも、車椅子に乗っていてもその感動を味わえるかどうかを調べてみよう！これぞ究極のバリアフリー調査だ！」というのが、今回の調査の目的…という大義名分を掲げて、兼ねてから一度行きたかった箕面のビール工場を訪れることにした。もちろん正直な気持ちを明かせば単に「呑んべえ」のおっさんが作りたての地ビールを呑みたくなっただけで、あんまり一般的には役に立たない調査と言われても仕方がないと思っているが・・・。

という訳で、具体的な調査先も、2ヶ月に1度、地ビールを宅配してもらっている大阪府箕面市の「箕面ブリュワリー」という地ビール工場にすこぶる簡単に決定。同じくバリアフリー調査を行なうナビの山下を筆記介護&カメラマンとして引き連れ、調査を開始することになった。

道中、「バリアフルな出来事」との遭遇する事への期待もあって、最寄り駅が阪急・牧落だという事と当日営業している事を確認した以外は、1枚の簡単な地図を頼りに以下のルートで箕面を目指して行った。

往きのルートから言えば、基点となる阪急梅田駅へは我家から地下鉄一本で行けるので、バリアフリー的には何の問題もない。ただ、その先の最終目的である牧落駅へは、阪急宝塚線石橋駅で箕面線に乗り換えるのが順当なのだが、宝塚方面ホームからは線路をまたがないと箕面線のホームへ行く事ができないが、そのためのエレベーターは設置させていない。そういう石橋駅の構造や本来石橋駅で乗り換えるという事を知らなかったのも、梅田で駅員に「牧落」と行き先を告げた際に、「池田駅での乗りかえでよいですか？」と聞かれたが特に不審に思わず「構いません」と答えたが、池田のほうが石橋より宝塚よりだということに電車に乗ってから気がつき「どうなるの？」という思いになった。実際には池田駅が「島式ホーム」なので、そこで一旦降り向かいの梅田行き

の電車で石橋駅まで引き換えし、箕面線に乗り換え牧落まで行った。それぞれの駅員も慣れておりスムーズに牧落まで行く事ができたが、例えば通勤・通学などで毎日利用する場合には余計な時間がかかり不便を感じるだろうというのが感想。



牧落駅の長いスロープ

さて、お目当ての箕面の地ビール「箕面ブリュワリー」までのルートと言えば、牧落駅から電動車いすで約20分。地図を頼りに進んでいくうちに道の脇に地ビールのタテ看板を発見。外観は「町工場」だが、黄色い看板に地ビール「箕面ブリュワリー」が見えた。その脇には「MINOH BEER」の看板もある。わくわくしながら敷地内に入っていったが入口近くにワンボックスがとまっていたこともあり、「えっ？どこから入れば良いの？もしかして、ここまで来て中に入れないの？」等々の不安がよぎったのも一瞬で、大きな木の樽の置かれてある横のドアが開き、奥さんらしき女性が笑顔で迎えてくれた。この日、営業しているかを確認する電話をした際、車椅子で行く事だけは伝えておいたので気にしてくれていたようだ。



大きな樽が置かれた入口

入り口に段差は無く、20畳もあるかどうかの店はカウンター席のみ（イスは移動できる。床面からカウンターまで102cm）。車椅子には少し高いカウンターだが、私なら手を伸ばせば届く高さ。とりあえず、ここお勧めの「バイツェン」で山下と乾杯！！ロースハムをおつまみに、普通のビールしかご存知でない方には想像の付かないのではと思う「フルーティー」で「濃厚」な箕面ビールをじっくり味わう事ができた。

残念ながら、工場のほうは段差もあり狭くて車椅子では入れず窓越しに覗く程度で我慢せざるを得なかったが、店の方に写真はバッチリ写してもらえた。



たっぷりと地ビールを堪能



工場(酒蔵?)の様子

お話によると、97年から始めて丸11年目。箕面はビール造りに向いた良い水があるので今の場所で、地ビール造りを始めたとのこと。

私も参加したことがあるが、全国各地の地ビールが集まるイベントにも参加し色々な賞も受賞している、地ビールの中でもかなり名門を3杯頂き、ほろ酔い気分で帰路に就いた。

期待していた「バリアフルな出来事」との遭遇が無かった事も、残念な事の一つだが…。

ちなみに、牧落駅のバリアフリー情報と帰りのルートを紹介すれば次のようなことになる。箕面方面のホームにのみスロープがあり、改札口を通らずホームから直接、おもての車道に出る形になっている。出入りには駅員を呼んで鍵を開けてもらわなければならない。牧落駅から石橋駅へ向かうホームへ行くにはエレベーターもスロープもなく、石橋駅経由で梅田に行く場合（私の場合で言えば帰り）には一旦終点の箕面まで行き折り返して石橋駅まで行くことになる。

また、スロープがある方の町並みは民家が多くいわゆる「裏駅」のような寂しい場所で、そこから比較的にぎやかな「表駅」の方に出るには線路をくぐる階段があるが、アーチ型の柵も有り、もちろん車椅子の場合には50～60メートル線路沿いに進み自動車を通る事が出来る高架を潜る、というかなりの遠回りをしなければならない。

当日は雨模様で真冬のとても寒い日だったが、私にとっては念願が叶ったとてもハッピーな1日だった。



ご満悦

地ビールの解説

地ビールとは、緊急経済対策の一環として、1994年4月の酒税法改正により、ビールの最低製造数量基準が2000klから60klに緩和されたことを受けて全国各地に誕生した地域密着・小規模醸造のビール会社による、地方ローカルブランドのビールのことである。

概要

多くの醸造所が、エール、ダークエール、ピルスナー、ヴァイツェン、ケルシュなど数種類のスタイルのビールを醸造している。こうした地ビールの醸造所は、全国で100カ所前後ある。

緩和後、一時は地ビールブームとなったが、次第に沈静化。価格の安い発泡酒の攻勢を受けたことで、高価格の地ビールは一気に窮地に立たされることとなり、廃業する業者も出るようになった。実際に大手ビールメーカーですら、地ビール提供のレストランを閉館せざるをえない状況になった。これは我が国では大手メーカーによるピルスナースタイルの大量生産が主流であるため他のスタイルの味が普及せず、加えて割高な少量生産では一部マニアにしか浸透しなかったためである。

また、地ビールは全国区の手ビール会社の製品に比べると、販売価格が高い上に賞味期限も短く、当然製造量も少ないため、経営に関してはかなり厳しいところが多い。このため、居酒屋チェーン等の飲食店向けに特化した生産を行ったり、他の地ビール業者のOEMを行うなどして何とか生産を維持しているところも多い。

西洋の、特にビールが盛んなドイツやイギリスなどでは地域ごとに特徴のある様々なビールが飲まれていた。1980年代後半よりアメリカ合衆国にて、地方の小規模な醸造所や、レストランに併設された醸造施設によって生産されるビールが人気を得ていたことが、世界的な地ビール流行の流れとなった。それらの醸造所は、クラフト・ビール、マイクロ・ブリュワリーなどと呼ばれている。アメリカの代表的なクラフト・ビールとして、「サミュエル・アダムズ」等が挙げられる。

審査会

毎年、日本地ビール協会主催でジャパン・ビア・カップが開催されている。この審査会で全ての地ビールの出来の優劣が決まるわけではないが、一定以上のスキルを持つ審査員によって審査されているため、ある程度の信頼はおける。なお、ジャパン・ビア・カップの入賞ビールは東京や大阪、横浜で行われるジャパン・ビアフェスティバル会場で試飲が可能である。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より



新人スタッフ自己紹介

名前：足立 誠
年齢：23歳 1985年9月6日生まれ
星座：おとめ座 血液O型
障害名：脳性まひ（起立困難）
身長：164センチ 体重：減量が必要
趣味：スポーツ観戦、車、音楽鑑賞
大学で学んでいたこと：障害者福祉
出身：大阪府貝塚市
チャームポイント：ま〜るいお顔



2009年2月より自立生活センター・ナビのスタッフの一員となりました、足立誠といいます。よろしくお願いします！

私がNPO法人中部障害者解放センターと「運命的な出会い」を果たしたのは昨年秋頃でした。何をもって「運命的な出会い」かと言うと、話は大学時代、就職活動を行っていた頃に遡ります。気楽な学生から社会人へ…どんな所で仕事をしたいかを考えた時、大学で学んだことを活かした障害者支援関連の仕事がしたいと思い、福祉関連企業の面接会に何度か参加しました。しかしこの会社のリアクションも冷ややかなものでした。私は一般企業と福祉関連の就職活動の2本立てをこなせるほど器用でもなかったため、考えた末に福祉関連の就職を断念、一般企業へ障害者採用枠での就職を目指すことにしました。そして地元のハローワークに通い詰めながら、内定を頂いた仕事は携帯電話を販売するショップ店員でした。それまでアルバイト経験も無かったので、右も左もわからずとにかく緊張しっぱなしの日々が続きました。そんな極度な緊張状態の連続の中で普段通りの力など出せるはずもなく、3ヶ月で退職へ追い込まれました。

それから7ヶ月間、自由気ままな？フリーター生活を満喫しました。フリーター生活をしてみて身に染みたことは、人間は仕事があるからこそ休日が楽しく過ごせるのだということです。毎日が休日の生活はだいたい1ヶ月前後で飽きます、ホントに（笑）

そんな生活の中で気づいたことが1つ。福祉関連の仕事を探していた時は自分の「やりたい仕事」を探していたのに、一般企業で探すとなった途端「出来そうな仕事」を探していたこと。そりゃ世の中自分のしたいことを仕事にしている人は少ないとしても、このまま同じ考えでどこかに就職しても、また同じ失敗を繰り返してしまうんだろうなあ…と。

そして2008年秋。私は月に1度、南大阪療育園でリハビリを受けています。もう20年以上続けていることですが、その日、私の担当の先生から1枚の名刺を頂きました。それは自立生活センター・ナビ代表川嶋さんの名刺で、なぜその訓練担当から受け取ったのかと言うと、偶然川嶋さんと私の訓練担当が同じ先生だったのです。もし良ければ、とのお話でしたが、ちょうどその頃本格的に再就職活動に本腰を入れたところで、しかも障害者支援関連の仕事ということで即断即決でした。長くなりましたがこれが「運命的な出会い」の理由です（笑）

そんなこんなで川嶋さんとの縁があり、ナビへ勤務を始めて早1ヶ月。あっという間に多くの方とのつながりが増えていき、今日に至ります。当面の目標は通勤時間の短縮のためと、実家の親のありがたみを実感（痛感？）するための1人暮らしをすることです。いろいろ経験しながら、人とのつながりを大切にがんばっていきたいと思っています。街中에서도私を見かけたら、遠慮なく声を掛けるなりツッコミを入れていただいて結構ですので、どうぞよろしくお願い致します。

編集後記

1月は「行く」2月は「逃げる」3月は「去る」という言葉通り、月日が経つのは早いもので、もう3月ですねえ。どうしようかと思っている今日この頃……。季節はもう春！春といえば「別れと出会い」の季節です。みなさん！「素敵な別れ&素敵な出会い」を共にしましょう！

さて、今号のナビゲーションでは、前号に引き続きコンビニ調査の記事を掲載しました。と合わせて4社のコンビニを調査しましたが、障害者への対応マニュアルなどはある会社が多いようですが、現場での対応が大切だと思います。やはり？！障害者用トイレが設置されていない店舗が多いなと感じました。

今後「こんな所を調査してほしい。」とか「ここのバリアフリー状況を掲載してえ〜！」などあれば、どんどん、ご意見・ご要望をお聞かせください。ぜひとも、よろしくお願いいたします。＜やました＞

ワールドベースボールクラシック（WBC）が開幕しましたね。果たして日本が2連覇出来るのか注目しましょう！

さて、今回の障害者自立支援法の影響を探るインタビュー「自立生活の最前線から」ではNPO法人リアライズの三井さんと川本さんにお話をお聞きしました。三井さんと小坪は自立生活センター・ナビの元同僚なんです。そういう事もあり、僕自身いつになくリラックスして取材ができた気がします

（笑）NPO法人リアライズは自立生活センター、介助派遣の事業所、をされています。立ち上げて1年が経ち色々な苦労をしながらも様々な人とのつながり生かしてイキイキと活動されていました。「泉州地域を更に住みやすい場所に変えていく！」という熱い思いが取材を通して伝わってきました。＜こつぽ＞

△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-

自立生活センターナビとは…

☆ 私たちの考える「自立」は…

働いてお金を稼ぐ事や身の回りのことを全部自分で出来るようになる事、それだけが「自立」でしょうか？もちろんそれも大切なことですが、できない事は人の手を借りたり、気持ちを上手く伝えられないときには仲間にサポートしてもらったりしながら、一人一人の生活を創っていくことも「自立」の1つの形ではないでしょうか？私たちはこうした「自立」に色々な方法でお手伝いしていきたいと考えています。

☆ 地域で障害者の自立を実現していくための「道案内（ナビゲーター）」として例えば「介護してくれる人を探しているんだけど？」「家の中をもっと使いやすくしたいけどどうすればいいの？」そして「自立したいけど自分には無理かな？」

自立生活センター・ナビでは、こうした障害者や家族の悩みや相談について、障害を持つピアカウンセラーが同じ障害者の立場でお話を伺い、制度の説明や申請のお手伝い、住宅改造などのアドバイスをさせていただきます。その他、電動車いすで街へ出かけたり仲間と一緒に料理を造ったり地域で生活していく上で必要なことを、楽しみながら経験できる「自立生活プログラム」や、自立生活に関わる各分野の方々をお招きしてお話を伺う「自立生活セミナー」の開催、情報誌「ナビゲーション」の発行も行っています。

はっぴー
発行 自立生活センター・ナビ

でんわ 06 (6760)2671

じゅうしょ
住所 〒546-0042 大阪市東住吉区西今川2-3-8

ファックス 06 (6760)2672